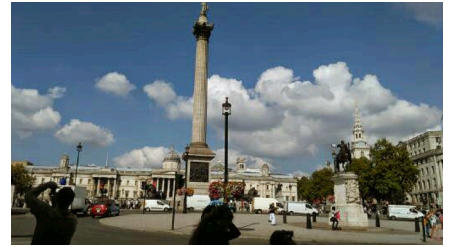


7月となりロンドンでの生活も残りわずかとなり、私の在外研究もとうとう締めくくりの時期となりました。最近のロンドンは、午後9時過ぎまで日照があり、気温も高くなり、ようやく夏らしくなってきました(もともと、今年は例年よりすこし涼しいそうです)。ヨーロッパは、初夏から秋ごろまでがベストシーズンとされ、ロンドンにも多くの観光客が訪れます。観光客が訪れるイギリスの名所の一つにトラファルガー広場(Trafalgar Square)がありますが、トラファルガー広場が造られた歴史的経緯を紐解くと、日本と同じ島国であるイギリスは、他のヨーロッパ諸国と長らく緊密な関係を築いてきたことに気付かされます。イギリスは、全盛期には世界史上最大の面積を誇る大英帝国として、第一次世界大戦まで唯一の超大国とも呼べる地位にあり、第一次世界大戦終結から第二次世界大戦までの間は、アメリカ合衆国とともに超大国でした(第二次世界大戦後にはイギリスは超大国の地位から陥落し、各植民地が独立してイギリス連邦が発足しました)。そこで、今回は、トラファルガー広場が造られた経緯を紹介することで、イギリスがヨーロッパや世界で強い影響力をもつ理由について考えたいと思います。



トラファルガー広場
(写真はすべて著者撮影)

トラファルガー広場は、1805年のトラファルガーの海戦での勝利を記念してロンドンのウェストミンスターに造られました。トラファルガー広場には、噴水の隣に巨大な4頭のライオンのブロンズ像に囲まれてホレーショ・ネルソン提督の記念碑が建っており、ナショナル・ギャラリーの入り口へと続く階段があります(広場周辺には、国会議事堂に付属するビッグ・ベン(正式名称はElizabeth Tower)やウェストミンスター寺院などがあり、日本人にとって観光地であるウェストミンスターは、イギリスにとっては政治の中心としての役割もあります)。

海洋国家であるイギリスにとって、トラファルガーの海戦での勝利は政治的に重要な意味があります。19世紀初頭、ヨーロッパ大陸は皇帝ナポレオンが率いるフランス帝国の支配下にありましたが、海上支配権を有したイギリスは、ナポレオンの支配下にはありませんでした。こうした状況において、ナポレオンは、フランスとスペインの連合艦隊33隻を編成して、イギリスの海上封鎖を突破してイギリス本土への侵攻を試みましたが、イギリスは、この侵攻を阻止すべくネルソン提督の艦隊27隻を送り、連合艦隊に勝利しました。制海権を失ったナポレオンは、イギリス侵攻を諦めざるを得なくなりました。もっとも、トラファルガーの海戦での勝利は、ナポレオンがトラファルガーの海戦での敗退の2ヶ月後のアウステルリッツで勝利したため、ナポレオン戦争の一大転機ではありませんでしたが、イギリスの海上制覇という点で重要な意味があります(1815年のワーテルローの戦いでの勝利によってトラファルガーの海戦での勝利の意味が評価されるようになった)。その後、イギリスは、大英帝国として巨大な勢力を形成することになりますが、イギリスが海上支配権を有していたことが重要な要因であったといえます。イギリスが海洋国家であることが、現在においても、EUの加盟国でありながら、ヨーロッパにおいて独自路線を貫くイギリスの現在の立場に通じているのではないかと思います(イギリスの強い発言力の源は金融や保険業界における影響力にあるといわれますが、イギリスのシティーにある保険市場としてのロイズの起源は海事ニュースの発行から始まっているそうです)。



ヴィクトリー号
(ポーツマス・ヒストリック・ドック・ヤードにて)

ちなみに、トラファルガーの海戦のイギリス艦隊の旗艦ヴィクトリー号は、現在も提督旗を掲げる現役艦ですが、ポーツマスにある海軍基地の乾ドックにて記念艦として展示されています。また、ポーツマスの海軍基地には、たくさんのイギリス海軍の艦艇が停泊しており、イギリスにとって、今尚、海洋が軍事的にも政治的にも重要な意味があるのだと感じさせられ、同じ島国に住む者として興味をそそられます。